

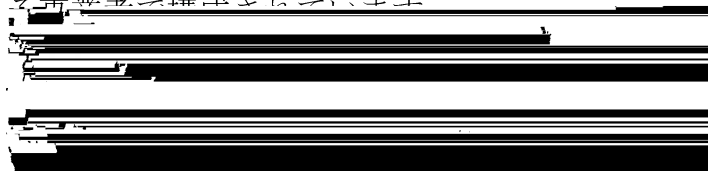
第3章 地域の動向

1 福岡農林事務所管内

【産直住宅「ふくおか背振の木・家づくりの会」 の設立で県産材利用を促進】

・福岡都市圏の背振山系や三郡山系の森林から生産された木材を使用して家づくりを推進する産直住宅グループ「ふくおか背振の木・家づくりの会」が23年1月に設立されました。

当会は、木材を生産・加工する福岡市森林組合及び福岡広域森林組合、木造住宅を設計・建築する事業者で構成されています。



設立総会の様子



搬出される福岡都市圏の木材

【篠栗地区の大規模山腹崩壊地が復旧】

・21年7月24日から26日にかけて、九州付近に停滞した梅雨前線による集中豪雨で、当農林事務所管内の各所で山地災害が発生しました。

・中でも、糟屋郡篠栗町大字篠栗地区では、幅20m、延長280mの山腹が崩壊し、家屋及び2名の尊い命が奪われる大惨事となりました。

・このため、21年度から2か年で災害関連緊急治山事業により災害復旧に取り組み、土砂流出防止対策として谷止工（コンクリート）、崩壊地の緑化を図るため緑化工等を実施しました。



被災直後



復旧後

2 朝倉農林事務所管内

【シカ食害対策として大苗を試験植栽】

- ・近年、伐採後の植栽地におけるシカの食害が増加しています。
- ・植栽地をシカの食害から守り成林させるため、120cm以上の大苗を植栽すれば幹の先端部への致命的な被害はないという研究結果を基に、東峰村において、比較するための小苗を併せて約140本を試験植栽して、シカによる被害状況を調査しました。

東峰村はシカが多い地域であり、植栽の数日後にはシカの食害が発生しましたが、苗長が160cm以上であれば幹の先端部への食害がなく、木材としての利用に影響ないことが判明しました。



大苗の植栽状況

【土石流の衝撃を考慮した治山ダムが完成】

- ・21年7月の集中豪雨により、久留米市山本町耳納地区において土石流が発生し、下流の人家等が被害を受けました。
- ・このため、災害関連緊急治山事業により災害復旧に取り組み、21年度から2か年計画で治山ダム1個と発生起因となった山腹崩壊箇所の緑化工事を実施しました。

この治山ダムは、直下にある人家の保全や、上流に堆積した不安定土砂の流出防止のため、天端幅は通常1.5～2.0mに対し3.0mとするなど、県内で初めて土石流の衝撃を考慮した構造としました。



被災直後



土石流の衝撃を考慮した治山ダム

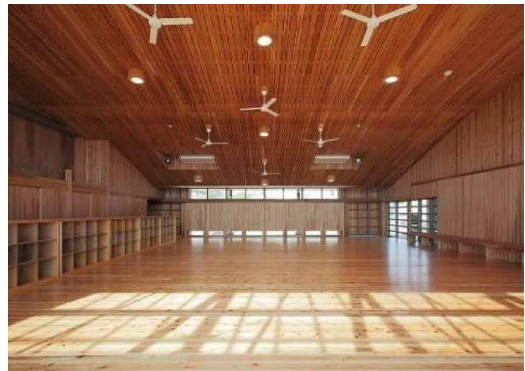
3 八幡農林事務所管内

【県産材を使用した保育園の講堂が完成】

・遠賀郡遠賀町浅木にある社会福祉法人朝木会南部保育園に講堂「おひさまホール」が23年3月に完成しました。

ホールには、床や壁、天井などの内装に加え、外装にもふんだんに木材が使用され、実際にホールに入ると、木の優しい香りが出迎え、床からも木の暖かさを実感できる施設となっています。

ホールを使用する園児、地域の方にも好評で、保育活動のほか、地域でのイベントにも活用されています。



「おひさまホール」の内装



木の暖かさが感じられます

【治山事業で山地災害を復旧】

・21年に続き22年においても、7月に梅雨前線による豪雨災害が発生し、八幡農林管内の林地や林道も、被害額で約1億8千万円にのぼる甚大な被害を受けました。

・このため、県では、災害関連緊急治山事業をはじめとする各種治山事業により、計画的に山地災害の復旧を図るとともに、北九州市や遠賀町においても、県単独補助治山事業や林道災害復旧事業に取り組みました。



北九州市門司区上藤松1丁目



北九州市小倉南区大字市丸

4 飯塚農林事務所管内

【森林公園「道の駅香春治山公園」が完成】

・田川郡香春町を走る国道 201 号線沿いの道の駅「香春」の隣接地に森林公園「道の駅香春治山公園」が完成しました。

林内の溪流に谷止工や流路工を整備することにより防災機能を高めるとともに、遊歩道の整備や、緑化木の植栽、森林の改良等により散策して自然とふれあうことができるようになりました。



道の駅香春治山公園案内板

公園の広場から香春岳の全体を一望できることから、道の駅を訪れる人びとの憩いの場や気軽な山歩きの起点として利用されている。



環境防災林整備事業で整備した治山施設

【田川小学校の児童に森林林業教育を実施】

・22年8月、添田町英彦山青年の家で田川市田川小学校4年生 34名及び教員4名を対象に森林林業教育を行いました。

屋内で森林と林業について説明した後、ペ



屋外体験

5 筑後農林事務所管内

【木造の「みどりの杜病院」が完成】

・23年3月、八女市立野に緩和ケア病院の木造施設が完成しました。

この施設は、緩和医療を専門的に行う独立型の病院であり、患者にとって良好な療養環境を提供するため、病院では珍しい木造構造により建設されています。

県産のスギ材が、柱や梁などの主要構造材や内装材として使用されており、暖かで温もりのある病棟となっています。



施設内部木材利用状況



病院施設全景（外観）



建て込みの状況

【森林整備や治山ダムの整備で水源機能を維持増進】

・矢部川の上流に位置する松瀬ダム、日向神ダムの上流域において、水資源の確保や近年の局地的な豪雨による土砂災害の防止等、森林の持つ公益的機能の維持増進を図る水源流域広域保全事業に取り組んでいます。

14年度から21年度まで矢部川支流の松瀬川、日向神川、柏木川等の流域の「日向神地区」において、森林整備450ha、治山ダム等の整備27基、崩壊山腹の復旧8か所(3.45ha)を実施しました。

22年度からは新たに、白払川、田出尾川等の流域の「矢部地区」で事業に取り組んでいます。



施工4年経過後の山腹工事箇所

6 行橋農林事務所管内

【木質バイオマスの利用を推進】

・未利用となっている木質バイオマスの有効利用を図るため、平成22年7月、行橋・八幡農林管内行政及び生産者、需要者等で構成する「北九州地区木質バイオマス利用推進協議会」が発足しました。

当会では、地域における木質バイオマス利用拡大についての協議や間伐材等の効率的な収集・運搬、木質チップ生産やその利活用についての現地研修会を実施しました。



グラップル付トラックによる木材の積み込み



加工場での研修

【林道開設で森林の持つ多面的機能を増進】

・みやこ町で開設中の「蔵持山線」「西犀川線」、豊前市と上毛町を繋ぐ「豊築松尾線」沿線では、林道工事の進捗に伴い間伐を推進し、水源かん養や土砂災害の防止など、森林の持つ多面的機能の増進に努めています。

・また、豊築松尾線のある上毛町では、林道開設により、修験道の山として文化財的価値の高い松尾山の観光資源を生かした取り組みが進んでいます。



「蔵持山線」沿線の間伐



「豊築松尾線」沿線の「一ノ鳥居」